

### 3 大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）

## 社会福祉法人が未来を見据え、地域に必要な取組みを“協働”でつくる

#### 組織概要

- 平成27年7月設立。大田区内に法人本部または事業所を有する社会福祉法人が参加。平成28年3月の社会福祉法の一部改正により、地域公益活動の実施が社会福祉法人の責務となったことを受け、各法人が得意なことを持ち寄り、協力する“プラットフォーム”として位置づける。
- 令和6年度現在、41法人が加入。主な事業分野の異なる5法人が幹事法人となり、大田区の地域福祉の向上をめざし、区内全域および4つの基礎圏域（エリア）に分かれた活動をすすめている。

\* 幹事法人 < >内は各法人が取り組む事業の主な対象分野

(福)池上長寿園<高齢>

(福)大田幸陽会<障害>

(福)大洋社<母子・子ども>

(福)有隣協会<生活困窮>

(福)大田区社会福祉協議会<地域>

#### 顔の見える関係づくりから、協働の取組みを重ねる段階へ

平成27年度に、幹事法人を中心に大田区内の社会福祉法人が集まり、大田区社会福祉法人協議会（以下、「おおた福祉ネット」）を設立しました。まずは区内の社会福祉法人同士の顔の見える関係づくりから始めようと、社会福祉法人制度改正に関する勉強会や情報交換会を実施しました。その後、社会福祉法改正により地域公益活動が社会福祉法人の責務とされた平成28年度には、事業モデルづくりの一環として、ひとり親家庭等を対象とした「無料法律相談会」、平成29年度には、福祉人材の育成を目的にした「おおた福祉カレッジ」や、複数法人が連携した「おおたスマイルプロジェクト」によるひとり親家庭の子どもを対象とした体験型学習会「れいんぼう」などに取り組んできました。

こうした取組みを、「おおた福祉ネット」に参加する全法人が全体会で共有することを通して、着実に法人間の関係が深まってきました。そのことでお互いの実施する事業や取組みを知り、方向性を共有して地域への目線を合わせることもつながってきました。

「おおた福祉ネット」は、当初より目指すゴールまで5段階のステップを想定し、活動をすすめてきました。コロナ禍で、活動が制限される時期もありましたが、第1段階の「設立」、第2段階の「地域連携公益事業」を経て、ゴールとなる第5段階「大田区に住む人たちが生きやすい街」を見据えてステップアップしています。現在は、第3段階の「全体化・現場階層・働く支援へ」から第4段階の「地域共生社会へ」の中間地点にいると認識しています。

「おおた福祉ネット」の強みは、大田区社会福祉協議会（以下、「大田区社協」）とともに、事業の分野が異なる4法人が幹事法人となり、それぞれが所在する区内4つの基本圏域（エリア）で、地域の活動の核となっていることです。大田区は昔から、人と人、事業所と事業所のつながりの強い地域のため、エリアごとのつながりを活かした活動もスムーズに受け入れられ、かつ積極的です。それを大田区社協が幹事法人としても、事務局としても、また各エリアに配置された地域福祉コーディネーターが連携する活動としても支えています。エリアの活動



おおた福祉ネットパンフレット  
「ネットワークで福祉（えん）をむすぶ」より抜粋

は幹事会を通じて区内全域に広げつつ、「おおた福祉ネット」の全体会でも共有しています。

また、大田区社協では、地域団体やボランティアへの理解を広めるためのフォーラムの開催なども別途行っています。今後は、「おおた福祉ネット」を社会福祉法人だけのネットワークの活動にとどまらず、より幅広く多様な参加を得て、地域の中で一体的な取り組みとしていきたいと考えています。

## エリアごとに違う課題や気づきに、そのエリアの法人がもつ力をあわせて取り組む

コロナ禍での活動休止期間を経て、令和5年度からは全体会等での研修実施から活動を再開し、現在、エリアごとの活動に取り組んでいます。また各幹事法人は、これまでの取り組みを通じて得た経験をもとに、より一層、地域に向けた活動をすすめていきたいと考えています。

### 大森エリア／12法人参加

#### 【現在の活動内容】

##### ○ フードパントリーを通じた食の支援

当初、ひきこもりがちな若者への支援を目的に、食支援の活動に向けて活動を開始したが、参加法人で会議を重ねる中で「若者に限らず、地域の中で人と人がつながるきっかけにしたい」との意見が多く、関心のある方は誰でも気軽に参加してもらえよう、幅広い世代を対象にしたイベントを開催している。

##### ○ 分野を超えた福祉人材の育成のための研修

各法人の職員育成の一つとして、お互いの現場を知るための「一日職場体験」を実施。エリア内で受け入れる施設と体験を希望する職員を募集。事業の分野を超えた相互理解や、施設間の横のつながりづくりのきっかけとなり、より視野の広い人材の育成や連携強化につながっている。

#### \*今後5年を見据えた課題・取り組みたいこと 幹事：(福)大田幸陽会

さまざまな事例を通じて、地域は育っていくと考えています。地域のイベント等にも参画しながら、利用者をど真ん中に置いて、地域に横串を刺して取り組んでいきたいと考えています。

先日、エリア内の施設事業所の職員による事例検討会を開催しました。知的障害と精神障害の合併障害があり、かつ高齢の事例を取り上げました。課題を複合的に持つほど、単独の分野だけでの関わりでは解決しきれず、支援の困難度は増していきます。困難度の高い事例の検討を通じ、そうした方に対してどのように支援のネットワークがつかれるかを考えることが重要です。

「おおた福祉ネット」での取り組みを通じ、実際の支援で、これまでになかった連携が取れはじめたり、取りやすくなった分野もあります。取り組みをすすめ、今後3～5年のうちには、困難なところにもみんなで行っていけるような支援体制を整えていきたいと考えています。

大田区はもともと地域のつながりが強い地域です。このつながりを大事に、より強固にしながら地域共生のイメージをもって取り組んでいきたいと思えます。

### 調布エリア／7法人参加

#### 【現在の活動内容】

##### ○ フードパントリーやフードドライブ

若者も含めた困窮世帯に対する食の提供だけでなくとどまらず、場をカフェ形式に設定し、複数の社会福祉法人が連携する強みを活かした相談支援を実施。飲食の提供時に、参加者へ専門職が自然に話しかけ、その会話をきっかけに困りごとなどを引き出し、必要な相談支援につなげている。

今後取り組む予定のフードドライブでは、法人の事業を利用する若年性認知症の当事者の方々も準備に参画。実施にあたっては、地域の商店に物品を借りるなどの協力を仰ぎ、福祉分野以外の方ともつながり、地域の理解や関係を広げながら取り組みをすすめている。



おおた福祉ネット幹事法人の皆さん

### \*今後5年を見据えた課題・取り組みたいこと 幹事：(福)池上長寿園

今、「社会参加」「孤立防止」「居場所の確保」のための取り組みが、特に地域から求められていると感じます。私たちは高齢分野に取り組んできた法人ですが、おおた福祉ネットで多分野の方々と一緒に取り組みをすすめる中で、高齢者に限らず、全世代に渡るつながりをつくれる可能性を感じています。

フードパントリーは、大田区が設置する「シニアステーション」という、高齢者の総合相談窓口であり、高齢者の元気維持・介護予防のための拠点を会場としています。こうした地域にあるさまざまな場を地域資源として活用することで、いろいろな人が集まり、地域の課題をキャッチしやすくなります。また、何か取り組みを行う際は、そこに相談を受ける体制を加えることも最初から意識しています。ただ場をつくるだけでなく、話をしてもらいやすい環境設定を心がけています。

「社会参加」をすすめるためには、ひきこもりの若者などの声を聴くことから始めなければなりません。話をしてもらい、それを引き出す能力を、専門性として私たち社会福祉法人の職員は持っていると思います。お茶を飲みながら話してもらい、それを受けとめる。居場所があると、そこから広がって課題が見えてくることもあります。すぐに解決までには至らないとしても、そういう場の提供を地域で展開していきたいです。

## 蒲田エリア／13法人参加

### 【現在の活動内容】

#### ○多世代交流オリンピック

子どもからシニアまで、多世代交流をしながら楽しめる企画として「オリンピック」を開催。公園を会場に、各施設の利用者はもちろん、公園を利用した地域の方など、多くの参加を得た。

#### ○居場所づくりの具体化に向けた検討

令和6年度は「居場所づくり」の具体化に向け、すすめる予定。社協の地域福祉コーディネーターが相談を受けている当事者の方々にも会議の場に参加してもらい、一緒に検討をすすめ、より参加しやすい場になるよう検討している。

### \*今後5年を見据えた課題・取り組みたいこと 幹事：(福)有隣協会

私たちの法人では、生活困窮者の支援を行っています。最近、「ホームレスが減っている」と言われていますが実態とは違います。「ホームレス」というと屋外にいる路上生活者をイメージしますが、長期間ネットカフェ等に滞在している方の中にも、自宅がなく困窮された方もいます。

大田区には、生活に困窮した方へのさまざまな相談窓口やサービスがあります。相談に来てもらえれば何かしらのサポートが受けられ、生活が少しでもよい方向にすすむことが想定できる状況です。しかし、相談に行くこと自体に高いハードルを感じる方も多いようです。そこで、エリア内にある「老人いこいの家」で、サロンのような形で「よろず相談」を開催し、課題や困りごとを聞いています。地域の方々にとって行政機関等に相談することはハードルが高く、“区に相談するくらいなら我慢する”という意識をもつ方も未だ多くいます。我慢して問題が深刻化するような悪循環にならないよう、予防的な活動が大切だと感じています。

## 糺谷・羽田エリア／9法人参加

### 【現在の活動内容】

#### ○各法人の行事等への参加、活動の共有化や事例検討会の開催

エリア内の各法人が実施している行事等へ参加し、交流する機会をつくることで、お互いの領域への知識が深まり、より地域の特性が見えやすくなっている。また、地域の中に複合的な課題を抱えた家族が多くいることも見えてきた。多分野で協働して、課題解決に向けた取り組みをすすめられるよう、それぞれの活動を共有しながら、事例を通じた勉強会を実施している。

#### ○地域のお祭りでのブース出展

社会福祉法人だけでなく、地域のさまざまな方とのネットワークづくりをすすめたいと考え、多くの人が集まり盛り上がる地元のお祭りに、「おおた福祉ネット」としてブースを出展。多様な種別の施設があることや、相談する場があることを認識してもらいきっかけとしている。

## ○「おおたこども民生委員」の活動推進

エリア内の民生委員からの「子どものいる世帯で気になることがあっても関わりが難しい」「虐待が疑われるケースをどう相談につないだらよいか」等の相談をきっかけに、子どもと民生委員をつなぐしくみとして「おおたこども民生委員」の活動を平成30年度からスタート。子どもたちにさまざまなプログラムで民生委員活動を体験してもらい、地域への関わりを深めてもらう活動を実施。共同募金の街頭募金活動を一緒に行うことも予定している。

### \*今後5年を見据えた課題・取り組みたいこと 幹事：(福)大洋社

子どもや母子分野における地域資源はまだあまり多くなく、行政主導の印象があります。今後は、例えば妊産婦支援などを、さまざまな立場の方と情報交換してすすめていけるとよいと思っています。また、視野を広げれば、エリア内の交通も課題です。バス便が減り、勤務時間帯が遅い人がバスでは帰宅できなくなっています。また、公営住宅ではお風呂がない家庭も多くありますが、銭湯も以前より数が減り、利用できる場所が限られてしまっています。そうした、まちの社会資源の変化も意識しながら、情報を発信し、取り組んでいくように努めています。

「おおた福祉ネット」には、はじめから、向かう先のイメージがあります。活動をすすめる中で子どもや民生委員、NPO法人ともつながりができ、今では企業ともつながり始めています。社会はこの先5年くらいで人口がピークとなり、その後のピークアウトが見えています。人口減少は止められず、地元の自治会や民生委員のなり手も、5年後にはかなり少なくなるかもしれません。そうした社会のイメージを持ち、これまで通りでなく、さまざまな分野で次の世代につなげる意識を持つことや、循環すべき部分と継続可能な方法を考えることの両方が必要で、この先の課題です。

## エリアを超えてより広域に、またネットワークを活用して今後取り組みたいこと

今後は、福祉のことを福祉の人だけで考える時代ではなくなります。みんなで地域のことを考えていくことが重要です。東京は人口が流動的で、さまざまな人が集まっていることが特徴ですが、住まいが定まっていない方への支援は非常に困難です。その対応を考えるのは区市町村なのか、都道府県なのか。さらに、住居を転々としながら東京にたどりついた人たちの支援をどうするのか、みんなで考えていく必要があります。

どの地域でも、同じような悩みを抱えているのではないかと思います。地域の特性は違っても、他でどのように取り組み、どのようなアイデアを持っているのか、お互いに知ることのできる交流の機会を作っていきたいと思います。また、東京都域の種別ごとの協議会で、こういった取り組みをするのかも重要であると思います。

次の段階では、地域を超え、広域的に取り組むべき課題が出てくるかもしれません。相談の受け皿が少なく、さらに相談を受けた後の居場所も少なくは、解決につながりません。その地域だけの問題にせず、また、バランスを考え合理化して取り組んでいくことも重要と考えます。

### ヒアリング実施概要

日 程：令和6年10月1日（火） 場 所：大田区社会福祉協議会

お話を伺った方：

(福)大田幸陽会 常務理事 勢古 勝紀さん、専務理事・事務局長 佐藤 功さん  
さわやかワークセンター 所長 島田 通利さん

(福)池上長寿園 経営本部 専門参与・事業担当次長 丸山 泰一さん  
公益事業担当課長 木下 篤信さん

(福)有隣協会 新井宿老人いこいの家 統括館長 羽田 恭子さん

(福)大洋社 常務理事 齋藤弘美さん、理事 近藤 真弓さん  
大田区立ひまわり苑 施設長 阿部 雅子さん

(福)大田区社会福祉協議会 常務理事・事務局長 中原 賢一さん  
事務局次長 近藤 高雄さん